

海津市まちづくり委員会「第17回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日 平成22年12月15日(水)
開催場所 海津市役所海津庁舎3階「委員会室」
分科会委員定数 14名
開 会 午後1時30分
閉 会 午後3時30分
出席者 ○分科会委員
岐阜経済大学経済学部教授 池 永 輝 之
公募市民 村 上 碩 也
公募市民 古 川 義 弘
公募市民 藤 田 繁 己
公募市民 本 多 高 洲
公募市民 柴 田 夕 子
公募市民 坂 本 由 貴
公募市民 伊 藤 祥 子
女性人材リスト登録者 石 川 晴 代
女性人材リスト登録者 安 部 晶 子
高須生活学校代表 加 藤 佳 余 子
海津市自治連合会代表 諏 訪 薫

○事務局 企画政策課 課長 中 島 哲 之
係長 後 藤 政 樹
主任 毛 利 卓 司

欠 席 者 公募市民 加 々 本 紘 一
公募市民 堀 田 義 郎

会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告書(案)について
4. その他
5. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第17回目の会議を開催させていただきます。 はじめに会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>本日は最終確認と言うことで報告書をお配りさせていただきました。前回ご指摘のありました、人口減少状況のグラフを追加させていただきました。また、会議後に個々の委員さんからご意見のあったことについて修正・追加させていただきましたが、おおむね内容は変わっておりません。修正する部分などがありましたら発言していただきたいと思ひます。まず、各委員さんからご意見のあったことについて紹介させていただきたいと思ひます。 アイデア一覧の「子宮けい癌ワクチンの公費負担」を子宮けいがんに限定せず各種ワクチンに変更してほしいとのご意見がありました。これについては、以前、議会一般質問でも同様の質問がありましたが、その際の答弁は近隣自治体の動向を見ながらということでお話しさせていただきましたが、ここ最近の動きで、子宮けい癌、インフルエンザ菌b型、小児用肺炎球菌について、H22年度、23年度で国費・市費により全額負担することとなりましたので報告させていただきます。</p>
A委員	<p>NHKでやっていましたが日本はワクチンに関しては途上国で、進んでいるのはフランスとのことでした。 この問題は、定住問題につながるのかと言われるとは思ひますが、女性にとってはとても大事な事なので外せないと思ひます。以前は、子宮けいがんに限定していましたが、他のワクチンについても考えていただきたいです。</p>
B委員	<p>それでは、子宮けい癌ワクチンの公費助成をご意見のとおり各種ワクチンに変更してはどうですか。</p>
事務局	<p>子宮けい癌を各種ワクチンに変えてということによろしいでしょうか。 （異議なし） 次に、B委員からも事前にご意見をいただいております。あらかじめ変更させていただいたものを紹介しますと、地元企業の情報発信と企業展の開催について、②企業説明会、③インターンシップを削除しました。これらはすでに実施されており、これ以上の対応は企業側にとっても相当な負担になるのではと言ったご意見をいただきましたので、情報提供のみ（通勤できる範囲にある企業を紹介するツールを提供する）とさせていただきます。 ご意見等ありましたらお願いします。 （異議なし）</p>

	<p>次に、C委員よりご意見があったのですが、定住促進を進めるにあたって何を指すのか、スローガンのようなものが必要なのではないのかというご意見がありました。今後どう取り組んでいくのか、ビジョンを示す必要があるのではないのかという事だと解釈しておりますが、事務局としては、もし変える必要があるのであれば、重要課題の部分について文章を直してはどうかと考えていますが、柴田委員さんから今一度ご説明をお願いします。</p>
C委員	<p>重要課題に2つ挙がっていますが、あまりにも漠然としすぎていて、何をすれば良いのか見えません。もっと具体的な目標と言いますか、若者を定住させるための何がしが要なのではないかと思えます。例えば、若者に絞った対策について、空き家住宅を紹介して住んでもらいました。じゃあそこから通勤させるにはどうしたらよいのかなど、色々な葉脈が出てくるわけです。ですから、対策についても関連性をもって考えた方が良くと思いますので、具体的な課題があって、その課題解決の対策をくっつけていく方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>先ほどのワクチンの話ですが、それによって定住化、そのための要素にはなるのかもしれませんが主な柱とはなりえないので、まず柱を立ててから作った方が良いのではないのでしょうか。</p>
D委員	<p>報告書を読んだときに、私自身も2年間関わってきましたが、インパクトがない。ピンとくるものがないんですね。私の息子にこの提案書を見せたんですが、住んでみたくなるような提案ではないと言われてしまいました。大垣市なんかは、まちのスローガン（子育て日本一）を立ててやっておみえですので、そういったものを参考に考えられないかなと思いました。</p>
E委員	<p>人口動態のグラフが載っておりますが、2009年で既に38,000人を切っている。別のグラフでは2010年で38,358人という数字が出ています。一方、市報では11月1日現在では39,018人となっておりますが、この数字の整合性はどうなっているのか。色々と指標はあるかと思えますが公表する数字が違うのは一般市民からすれば理解しがたいと思えます。</p> <p>人口動態調査が正しいのか、市報が正しいのか、はっきりさせないと誤解をされてしまうのではないですか。</p>
事務局	<p>市報の人口は住民基本台帳の数字をとっています。人口動態調査については国勢調査を基準として、毎年的人口動態を加減して出している推計値です。</p>
E委員	<p>そのことは市民には分からないと思いますので説明文は必要ではないでしょうか。</p>
事務局	<p>それでは、各統計がどういった数字を取っているか説明を加えさせていただきます。</p>
E委員	<p>本当に人口が減っているという現状を、いかに市民に知ってもらうか、危機感を持ってもらわないと始まらないので、数字は大切だと思いますのでお願いします。</p>

B委員	第1回目の時に県が出されたデータはどうなっていますか。
事務局	<p>県が当市の将来人口推計等に使ったデータは国勢調査です。国勢調査は実態調査であり、住民票の有無にかかわらず、基準日に海津市に住んでいた人を対象としています。一方、住民基本台帳は住民票の異動により変化していくものですので、国勢調査とは数字が異なってきます。</p> <p>報告書の使用データに関しては、一般的な指標に使われている国勢調査のデータを主として作り直しをさせていただきたいと思います。</p>
E委員	柴田委員さんが具体的な柱と言われていましたが、私の理解では報告書はこのような形式になるのではないのかなと思います。ただ若者に対する支援に具体性がないと言う事ですので、対策の中で加えるのが良いのかと思います。時間もありませんのでこの内容で良いのではないかと思います。
B委員	具体的な内容は、今までの議論の中でたくさん出ておりますので、加筆すれば良いのではないのでしょうか。
事務局	<p>まず、D委員にお伺いしますが、インパクトに欠けるとのご意見でしたが、アイデア一覧の中から、またそれとは別でも結構ですが、何かこういった提案をすれば良いんじゃないのかといった話があればご意見をいただきたいと思いますのでお願いします。</p> <p>次にB委員が言われました、具体的な対策を加えるとのことですが、どのアイデアをどの提案に加えるのか発言していただけると助かります。</p> <p>また、C委員にお尋ねしますが、具体的な柱を出していただけませんか。報告書にある重要課題は、過去のワークショップの中で出てきた意見を踏まえて事務局で作らせていただきました。現在住んでいる市民の生活環境が快適なことは当たり前の条件だというご意見と、若者が海津市に住もうと思えるような魅力が必要といった意見、特に経済的な支援の話でしたが、そういった事を考えていかなければいけないということ踏まえて課題の設定をさせていただき、企画案のワークショップをさせていただきました。</p> <p>時間的な関係もあり、事務局で作成して次回に出せ、ということでは会議回数や時間的にも、皆さんにご負担をおかけしますので、できましたらこの場でお諮りして決めさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
D委員	インパクトがないと言いましたが、代案を持っている訳ではありません。若者が関心を持てる事、子育てとか、住むところとか、より具体的な支援策を挙げるのか、今のような多少ぼかした形にするかになるとは思います。
B委員	空き家紹介だけでなく、住宅の取得支援など加えてはどうでしょうか。アイデアも出ておりましたので。
F委員	重要課題の部分ですが、20～30歳代に対する対策を考えてきたわけですから、地域コミュニティを元気にする仕掛けづくりが、若者に的を絞った戦略的な定住対策より上段に書いてありますが、若者より地域コミュニティの方が大事な感じがするので、これは逆じゃないでしょうか。

C委員	<p>コミュニティも若者も別々に考えるのではなくて一緒に考えるべき事じゃないですか。若い人を迎え入れるために住宅対策をしたと、住み始めてから子育てや地域との関わりなど色々出てくるわけですので、バラバラに考えるのではなく、すべては繋がっているんだから主な柱があって葉脈的な話になっていくんだと思います。</p> <p>私は家族力の強化（同居・近居）ということをおっしゃっていますが、家族の力を増やすということは、子どもの面倒をおばあちゃんが見てくれる、そうするとおばあちゃんから子どもは愛情を受けて育てられます。そして親も安心して働くことができます。また、おばあちゃんが弱くなった時、孫がおばあちゃんの面倒を見てあげることができるので、そういう家族間での支え合いが生まれてくるわけです。できるだけ、同居・近居を進めることで定住にもつながりますし、出た人に戻って来てもらうことは理想ですが、難しい部分もありますので、外に出ていかないように努力していかなければなりません。住む場所の問題、通勤に利用する養老鉄道や道路の問題、地域コミュニティの問題、それらをどう考えていくかがやりやすいのではないかと思います。</p>
A委員	<p>私は子ども達に出ていくことを勧めています。家族力の話は分かりますが、子どもが戻ってくるのは構わないと思いますが、出ていくなという言い方は反対です。</p>
事務局	<p>同居・近居を勧める、勧めないといった話になっておりますが、提案書の流出要因の中では、子どもが親元を離れて外へ出ていくことは、子どもの見識を高める機会であり否定するものではないという前提で議論がされている訳ですから、そこは個々のご意見でもありますので、ご理解をいただきたいと思います。そうした考えの違いもありますが、提案では、市民や市の利益となるような対策が提案できれば良いのかなと思います。視野を大きく、まち全体の利益となるような報告書に仕上がればと思いますのでよろしくお願いします。</p>
	(休憩)
事務局	<p>坂本委員さんのご意見ですが、2つの重要課題についてですが、事務局としては特に順序を意識しておりませんでした。今まで若者に対する議論をしてきたことでもありますので、上段に若者に的を絞った戦略的な定住対策、その下に地域コミュニティを元気にする仕掛けづくりとさせていただきます。そして要望事項には、若年層を意識した政策立案をしてほしい旨の文章を載せさせていただきますのでお願いします。</p>
E委員	<p>農家だけではないかもしれませんが、農家の未婚者も増えてきています。一生懸命農業をやっているが相手に恵まれないということもあります。結婚すれば、子どもも生まれ1人2人と人口が増えるわけですから、そうしたことも考えていくと良いかと思います。</p>
C委員	<p>少子化の大きな要因の中には、非正規労働者が多い、女性が晩婚化している</p>

	<p>といったことが取り上げられています。余談ですが、このまま少子高齢化が進めば、社会保障は、今は現役3人で1人の騎馬戦状態、平成55年度には1人が1人を支える肩車状態になると言われ、海津もそうなりつつあります。</p>
G委員	<p>結婚相談員をしておりますが、女性が結婚をしたがらない状況があります。男性はたくさん相談にみえますが、女性はなかなか出てきません。結婚はしたいようですが、結婚相談などの登録はしたくないようです。</p>
B委員	<p>今の農業政策、大規模化については国も支援されるのでしょうか、小規模化はどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>転作に参加した農家で1反以上、1反を超えた分についての保障になります。</p>
E委員	<p>農業に関してですが、個人経営ですと設備投資をした、でも病気になって農業ができなくなってしまった、それでもう倒産なんです。後継者に関しても長時間労働、市場の不安定などの理由から親が農業を勧めない、勧められないところもあります。生活に不安を抱えてはやっていけないわけですから、変えていかないと農業は駄目になると思います。</p>
B委員	<p>農業問題はとても大きいことで重要な事ですので、具体的な対策、対応が必要になってくるでしょうね。</p>
D委員	<p>商売をやっておられる方に対しての対策がありませんので何かあった方がよいのではないかなと思いました。</p>
H委員	<p>大きくりの方向性としては、この報告書の内容で良いと思います。ただ、個々を見ますと違和感があると思うんですが、例えば、報告書のはじめに人口減少がもたらす影響が書いてありますが、「年収が減少し行政サービスが低下する」とあるんですが、市の台所事情なんですよ。われわれは、まちづくりをやっているんですから、こういう順序だっておかしいんじゃないかと少し気になります。小児科医院が少ないとありますが、小児科だけではやって行けない、ほんとうに小児科の先生がいないのだろうか、海津市の先生の経歴を見てみないと内科の看板に隠れているんじゃないかと思えます。結婚して住む住宅がないというものも、南濃町の山裾のいっぱい賃貸住宅があるところと、こちらのほうの農業振興地域とは供給が違うわけですが、方向性としてはそう言われれば良いかなと思っていました。子育て世代のところで、企業内の託児所の提案がありますが、これだけ少子化の中でどこがあるかという、大垣市民病院の院内保育所くらいなものです。ですから実際提案してみてもどうかとは思いますが、方向性としてはまあいいのかなと。こういう違和感があります。</p>
事務局	<p>池永先生からご助言いただけますか。</p>
池永先生	<p>統計データが出ておりますが、人口ピラミッドは作れませんか。若者の流出が本当に多くなっている状況を市民にしっかり伝える、警鐘するために人口ピラミッドを載せていただきたいと思えます。</p>

	<p>このまま人口が減っていけば、市は小中学校の統廃合を問題にしてくるだろうと思います。これは由々しき問題で保護者も心配になり、海津市に住んでいられないというような状況になってくる。これを解消するためにはどうすればよいかと言うとコミュニティバスの利用を考える、そういう提案が良いのではないのかと思います。</p> <p>今までみなさんのお話をお聞きしておりまして若者に的を絞った定住対策の1つは働く場所、結婚・子育て、それにまつわる様々な条件整備、それから小中の教育。保護者の不安を解消する、若者の不満を解消する、そういった視点で整理し直してみるのも良いのかなと思います。</p> <p>もう少し具体的にいえば、職場の情報発信については、例えば桑名市の商工会議所、岐阜の商工会議所など、何処どこの商工会議所と連携をとるといった積極的な一文を入れても良いのかと思います。</p>
D委員	<p>報告書はいつまでに完成させるんですか。</p>
事務局	<p>予定では12月です。幹事会に諮って市長へ提案していきますので、遅くとも1月には完成させたいと思います。</p> <p>本日は報告書のまとめとしておりましたが、アイデアはその都度出てきております。先ほど、池永先生が言われた統廃合の問題。これ以外にもあるんですが、今までの議論やアイデアには出ていなかった提案が出てくると、まとめの作業に入っても新たな提案があり、その話題へ移ってしまいますので、できれば事前に事務局にお示しいただき、内容を整理したうえで議論を進めていかないと時間が足らなくなってしまいます。その辺りの事情もご理解いただき、極力、会議前に提案したい内容を整理したうえでお知らせいただきたいと思います。</p>
H委員	<p>言いつばなしになっている問題があります。例えば農業の跡継ぎの問題。ですが南濃と海津とでは考え方が違うわけです。農業の近代化といっても無理なこともあります。ですので、これくらいの内容で止めておいたらどうでしょうか。</p>
事務局	<p>過去の皆さんのご意見の中で40項目ありました。基本的にはその中から絞ってきたという経緯もあります。個々の問題に入っていくと、大変深い問題でもありますので、次回の会議で完成させましょうと言っても完成できないと思われまます。それだけ定住の問題は難しいということもありますので、今回大筋の方向性をお決めいただいたものでお願いしたいと考えます。修正等はもちろんさせていただきます。</p> <p>それでは、以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第17回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。</p>